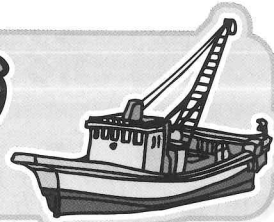




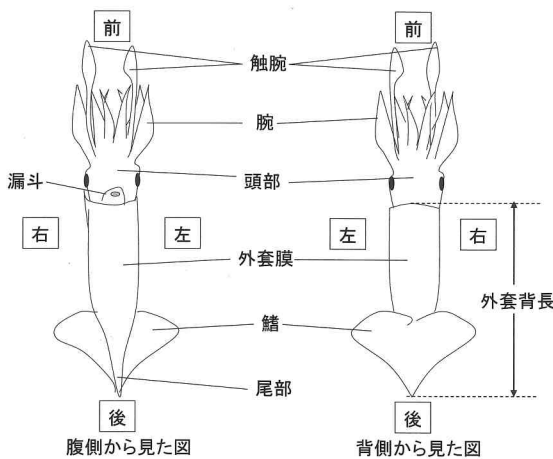
何でも魚^{うお}ツチング

No.83 『幻の深海イカ～「ユウレイイカ」揚がる』



今回は念珠閣統括支所から見慣れないイカが獲れたという情報が入り、サンプルを頂きましたのでご紹介したいと思います。

と！その前に、この記事を読む人の中にはイカを良く知らないという方もいらっしゃると思いますので、スルメイカを例にイカ類の体のつくりについて簡単に解説したいと思います。図はスルメイカの体を腹側（漏斗がある側）と背側から見た絵です。体は大きく分けて足（2本の触腕+8本の腕）、頭部、胴体（外套膜+鰭）の3つの部位からなります。

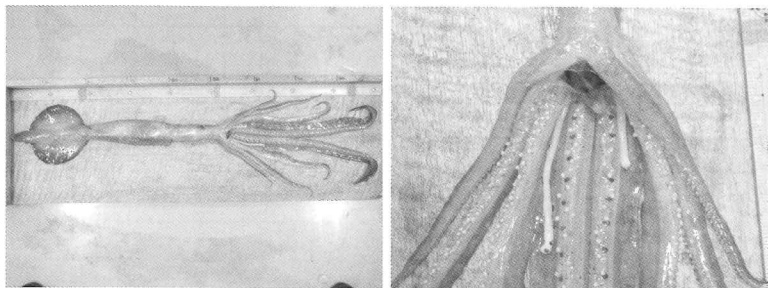


スルメイカの体のつくり

頭足類とも呼ばれるように頭部に直接10本の足が接続しているのが特徴です。イカに表と裏があることは多くの方がご存知だと思いますが（下水で表になっっているほうが背面）、意外と知られていないのが、前後左右の関係です。一般的な魚類ですと頭のあるほうが前尾鰭のほうですが、体の左右と分かりやすいですが、イカの場合はそう簡単にはいきません。頭が体の真ん中にあり表裏どちらからも顔が見えるため、誰もが悩むところです。しかし

人生迷ってばかりではいけません。決めるときはバシッと決めなくてはいけないのです。誰が最初に決めたのかは分かりませんが、背側から見て足が付いている方を前、鰭のある方を後として、その左右で位置を決めています。つまり、腹側から見た場合は左右が逆になるので注意が必要です。お恥かしい話ですが、私はイカ担当になって間もないころ、腹側から見て漏斗がちょうど口のように見えただけ、腹側を前だと思い込んでいました。(*注 漏斗は墨や排泄物の他、外套膜内に吸い込んだ海水を排出し推進力を生み出すための管であり、決して口ではありません！)

前談が長くなってしまいましたが、本題の方に入ります。連絡を頂いたのは6月21日のことです。エビ曳き操業時（水深490m付近）に網に入ったとのこと。試験場に持ってきたサンプルを見てびっくり（写真）。全身が寒天質でぶよぶよしており、丸い鰭に細長い頭部、2本の太い触腕と8本の腕（うち2本が紐のように異常に細い）とまるで火星人を思わせる奇妙な格好をしています。



ユウレイイカの写真(左:全体、右:腕部拡大)

した。さらに外套背長が38cm、鰭から触腕の先までの長さは94cmとおなじみのスルメイカよりもはるかに長身でした。図鑑で調べてみると、形態的特徴から「ユウレイイカ」と同定できました。このユウレイイカ、通常200〜600mの深海に生息しており、インドネシア近海、相模湾以南の太平洋に主に分布している種だそうです。日本海沿岸では極まれに捕れる程度で、イカマニアの間では、幻のイカと呼ばれるほど。日本国内ではめったにお目にかかれないため、研究が進んでおらずその生態についてはほぼ謎に包まれています。私が調べた限りでは北部日本海においては近年では2010年5月に佐渡沖で2個体、2010年6月に象潟沖で2個体獲れたとの情報があるのみです。いずれも外套長30cm前後で今回ののは北部日本海では大物記録みたいです。また、これらが獲れた時期、水深ともに今回の漁獲情報とだいたい一致しています。ユウレイイカの名が付いているだけに、蒸し暑くなってきたので、人間を驚かしているのかもしれないね。

なお、今回のユウレイイカは精密測定後、一夜干しにして食味試験を実施しました。外套膜はほとんど水分だったようで丸一日干した結果、皮だけになっていました。かろうじて残った腕部分ですが、噛んでみると身自体が塩辛く、飲み込む勇氣はありませんでした。一説によると海水中で浮力を調整するため体内に塩分を多く含んでいるようです。やはり一夜干しはスルメイカに限るようです。

最後になりましたが、貴重なサンプルを提供してくださりました鼠ヶ岡地区第3金重丸の富樫様、仲介していただいた県漁協念珠閣総括支所の菊地様に心から感謝申し上げます。

水産試験場海洋資源部イカマニア 工藤 充弘

●年金のお受取りは漁協で！